

第4回 (仮称)ねりま区民大学のあり方懇談会会議録

日時 平成23年10月25日(火) 18:30~20:35
場所 練馬区役所 本庁舎5階 庁議室
出席者 委員 14名
(事務局) 生涯学習部長、産業地域振興部長、生涯学習課長、生涯学習担当係長、
同係職員1名、同課庶務係職員1名

配布資料

- (1) これまでの懇談会で出された課題別意見一覧 ……資料1
- (2) 人材育成・活用のための具体的プログラム ……資料2
- (3) 学習のしくみに関する資料 ……資料3
- (4) 認証制度について ……資料4
- (5) 現況の施設設備の詳細 ……資料5

参考資料

- (1) 通信教育のあり方に関する資料 ……参考資料(1)
(第3回懇談会 資料6)
- (2) eラーニングのあり方に関する資料 ……参考資料(2)
(第3回懇談会 資料7)
- (3) 江戸川人生総合大学の事業概要 ……参考資料(3)
- (4) 民間運営の大人の自習施設 ……参考資料(4)
- (5) 主な区立施設案内 ……参考資料(5)
- (6) 現総合教育センターへのアクセス ……参考資料(6)
- (7) 提言の構成(案) ……参考資料(7)

【座長】

検討してきたことの中で、何ができるか、何をしたいか、何が求められているか、ということ
を懇談会としてまとめたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

(資料の確認)

【座長】

よろしいでしょうか。

引き続き、資料1の説明をお願いします。

【事務局】

(資料1に沿って説明)

【座長】

いかがでしょうか。

(なし)

1.人材育成・活用のための具体的プログラムについて

【事務局】

(資料2に沿って説明)

【座長】

提出した委員の方から補足やコメントはありますか。

(なし)

【座長】

非常に関心の持てる内容となっています。今後、懇談会として提案し、行政に判断を委ねることも必要かと思えます。

2.区民大学の学習のしくみ

【座長】

今回の懇談会の大きなところになります。(1)通信教育・eラーニング(2)修学(3)認証制度の3つについて検討します。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料3-1、資料3-2、参考資料3、資料4に沿って説明)

(資料4は認証制度の概要について)

【座長】

委員からの説明をお願いします。

【委員】

(資料4の教育支援人材認証制度、一般社団法人教育支援人材認証協会について説明)

【座長】

ありがとうございました。

まず、前回積み残した通信教育、eラーニングについて補足説明を事務局からお願いします。

【事務局】

(参考資料1、参考資料2に沿って説明)

先行事例である「世田谷eカレッジ」は世田谷区内の大学と連携して、大学の授業をインタ

ーネットで履修するしくみです。世田谷区は各4大学と協力し、各大学からの費用負担等がある、参加費については無料です。また、世田谷区民以外でも受講ができます。

ただ、年間にかかる費用が700万程度で、区民大学、少数ゼミ方式といいますが、そういった形で運営する大学の中では、費用対効果が問題になると思われます。

補足については以上です。

【座長】

いかがでしょうか。確かに、eラーニング、通信教育は費用がかかります。一番良いのは来ていただけるということですが、昼間来られない方をどうするかということです。

また、大学との関係をどのようにしていくか。多くのeラーニングは、区内あるいは近隣の大学と連携して実施していくということですから、その土壌があるのかどうかです。そこも含めてご議論いただければと思います。

いかがでしょうか。

【委員】

練馬区について勉強不足なのですが、通うのが不自由な方々に対する端末のサービスという計画があるのですか。実際に端末の準備をして計画をするのか、ただ計画だけして「環境をつくった」というのでしょうか。

【事務局】

人口の少ない市町村や自治体については、端末のサービスはありますけれども、練馬区では計画はありません。

【座長】

実際に端末をつけるかどうかということですが、端末の必要性についての議論が出ているということだとどめましょう。

あと、いかがでしょうか。

【委員】

授業も通信教育もeラーニングもやるというのは、厳しいかと思います。最初に、学校での授業をスタートさせるのですから、何年間か運営して、通信教育やeラーニングのニーズが出てきたら、そこで検討するということがいかがでしょうか。同時に行うことになるとうり整りがつかないし、無理だと思います。例えば、3年後ぐらいに検討するという程度でいかがなものでしょうか。

【委員】

委員皆さん方の基本的な意見は、現場でいかに人と人が出会って絆をつくるかという方向に集約していこうという話だったと思います。これだと、何単位かもらったら卒業できるというように単純に理解されて、誤ったメッセージを与えることになると思います。

【座長】

出会いの場というか絆を形成する場を区民大学もしくは練馬区の地域で実現しようということ。そこからスタートすべきだという議論ですね。

【委員】

そういう方向で、委員の皆さんは考えてきたと思います。

【座長】

いかがでしょうか。

【委員】

平成26年に開校ですと2年半しかありません。そうすると、立ち上げるのだけで精一杯ではないですか。今おっしゃったように人の輪とか絆を高めていく中で、必要に迫られたら検討すればいいと思います。

【委員】

世田谷区は4大学と提携してやっています。今回は、みなさんがおっしゃったように、第一段階では人と人の出会いということに触れておくべきではないでしょうか。今後は発展状況によって勘案すればよろしいのではないですか。

【座長】

既存の資源もありますし、各大学との連携は大学の資源を使ってということはあると思います。そこに関しては留保します。

ただ一方で、そういった内容については、今後検討していくことが必要だろうという意見が出ているという認識でよろしいでしょうか。

【委員】

そこに行けない人に対するサービスを何か考えないと、その人たちを疎外するようになりそうな気がします。健康高齢者だけではないはずですよ。

座長のおっしゃることわかりますが、ここで学ぶのではないというのであったら、世田谷と連携していますとか、練馬区内の大学も絡みながら、練馬学として入っていてもいいのかなと。もっと緩く、ネットワークは区域を越えても全く気にならないと思います。

そういう活用をして、不自由な方にも窓がちゃんと開いている形にしてあげた方がいいのではないかと思います。

【座長】

ご意見としていただきました。

【委員】

やっていくうちに考えることと、それから今おっしゃったように、やっているところへの情

報をお流しするというのも大事なことです。そういう形ならいいのではないかと思います。

【座長】

ありがとうございます。

今みたいに可能性を模索していく。ただ、軸としては、資料3 - 1の進め方でいくということで、よろしいでしょうか。

(異議なし)

【座長】

では、次は修学について検討します。資料3 - 1を見ますと、修学の構造を基礎的分野と地域課題分野で分けています。あと、パワーアップカレッジとねりま防災カレッジはそのまま維持するというイメージです。

こういう修学のイメージで、単位の取り方とか、入学・進級などのご疑問や、またこの点も留意すべきだということがありましたらご意見をお願いします。

パワーアップカレッジは1年次、2年次、そしてステップアップして、修了書をもって地域に入っていくわけですが、2年制にするのでしょうか。

少なくとも青少年自立支援はここに入れていこうという話が前回出ていましたので、こういう枠になります。いかがですか。

【委員】

パワーアップカレッジは2年間ですが、他は単発や数か月で終わるものもあるので、認証の重みも違ってくると思いますし、ある程度イメージを出していただかないとこちらもイメージがわからない。2年間学んだ認証と、1・2回学んだ認証のイメージも違うでしょうし、認証という意味が、その後具体的な活動の足がかりになるのか、単なる判子を押しで終わりということなのか。

具体的なイメージがないと、こちらの考え方が整理できません。ですからどちらが先かという議論もありますが、ある程度の区の方針・枠組みの中で考えないと、我々の意見もわからないので、その辺はいかがなのでしょう。2年間の講座もあれば何回かの講座もあるので、それをこの図の中で一緒に整理するというのは、しんどいかなと感じます。

【座長】

このしくみは、認証と絡めて議論した方がいいかもしれませんね。

学習成果の認証制度と生涯学習パスポートということで、もう一度、事務局から資料4を簡単に説明してもらえますか。地域とつながるという議論です。

【事務局】

自分が学んだものを積み重ね、記録していき、それを第三者機関といったものが評価をして社会に受け入れられる形として、しくみとしてつくるというのが認証制度という形です。

生涯学習パスポートは、生涯学習の成果を記録するしくみの一つとしてつくっており、先ほ

ど回覧した「京都京まなびパスポート」などです。通信教育協会の生涯学習パスポートも、特に地域とつながるものではなく、自分の学んだ積み重ねというものです。

ただ、区民大学については、資料3-1にあるように、学んだ学習の成果が地域の中に受け入れられるしくみの一つとして認証していくということが大事で、直接それが地域とつながる制度となる必要があると思います。

ですので、先ほどのような学びの積み重ねの京都の事例であったり、そういったものとはしくみが違うだろうとっております。

【座長】

そうすると、一つの可能性としては、パワーアップカレッジを卒業したら地域福祉の認証、ねりまの防災カレッジであれば防災関係の認証。あと、環境のことなら環境の認証という形で、1年制にするか2年制にするか、これを組み合わせていくものがあるのかを考える必要があります。ですから、上の地域課題分野と下の基礎的分野でやっていく意味があるのか。少なくともパワーアップカレッジと防災カレッジは、これを維持していくわけですからどうでしょうか。ねりま区民大学は、どういう形であれば市民として受講しやすいですか。

【委員】

もし、このパワーアップカレッジが基本枠組みになると、これは1時限90分で昼間3時限ということなので、昼休みを入れたら1日6時間ぐらいですね。そういうのが1か月集中するのではなくて、30週ぐらいをお考えなのですか。

【委員】

年間30日が2年間です。

【委員】

パワーアップカレッジがモデルになって、これに対応したコースをつくるとしたら、すごい大変ですね。

お金の問題ですけれども、パワーアップカレッジは3万円とありますが、これだけのサービスを受けて3万円でなら、これはすごくいいよねという感じがします。

【委員】

年間3万円です30回ですから1日1,000円です。

【委員】

子育てしながら勉強したいけれど時間が取れない方もいらっしゃるし、もう少し短い期間にするとか、二本立てにするというのはきついでしょか。

パワーアップカレッジの2年というのは、2年間の意味があると思いますが、単発で受講できるような、カリキュラムが似たようなものを短期で単位ごとで取れるようなしくみをつくると区民としたら行きやすいと思いました。

【座長】

それは、先ほどご説明のあった、4時間を一日でできるものとかを色々組み合わせたりしていけるのではないのでしょうか。

【委員】

今の話を聞きますと、例えば、練馬学という基礎分野は1日で取れて、地域課題分野の健康・福祉も1日ぐらいあって、その後、行きたい人は30日コースに上がってもらってという形。

その2つぐらいを取って、福祉の基礎の窓口までは立てるといところまでのものや、その後も、連続して30日ではなくても、ゆっくり学ぶということができるようなくみになればいいかと思います。

【委員】

お伺いしますが、パワーアップカレッジとねりま防災カレッジは、必ず区民大学と一緒に入るのですか。

防災カレッジとパワーアップカレッジは、色々と地域に出るような勉強をしているのでしょうかけれども、生涯学習の地域に活動する人はいっぱいいます。そうすると、こういう何本かの柱を立てていくとすれば、でき上がっているパワーアップカレッジ、防災カレッジは、他からの募集はしないということですか。どのようになっているのでしょうか。

【座長】

資料3 - 2がありますし、事務局で事実関係を説明してください。

【事務局】

わかりました。

資料3 - 2をご覧ください。どちらも基本的考え方といいますか、懇談会や検討委員会でまとめたものを中心に表にしています。

パワーアップカレッジについては、既に事業としてスタートして、現在4年目、5年目を迎える事業です。また、ねりま防災カレッジについては、練馬区においては小学校単位として避難拠点というのをつくっておりますが、そういったところで活躍する、あるいは、それ以外の部分でも防災意識を持った区民を育てていくという考え方で、現在のところは、基本計画が策定されている段階でこれからカレッジが開校します。

いずれにしても、地域で活躍する人材を育てていくという中身ですので、これについては既に考え方が固まっている、あるいは事業がスタートしているところですので、区民大学については取り込んでいくというのが、以前懇談会で説明した、基本的な考え方でお示しているところです。

【委員】

私は防災拠点の会長として、若い人に勉強してもらおうということで防災の勉強会に送り出しています。防災拠点には、勉強会に行かなくてもできる人もいます。だから、生涯学習もそうですが、この1年・2年というのは、専門的にやってきた人はゼロからやらなくても、基

礎はやってあるので2年生からでもいいという解釈でいたのです。だから、防災カレッジとパウカレとほかの生涯学習が、一緒に大学のスタートラインになるのか。パウカレと防災カレッジも毎年募集をしますが、これから色々な生涯学習でゼロからスタートをしていくということなのですか。

そうすると、パウカレや防災カレッジに入学する方の中にも、生涯学習に一生懸命の人がいるかもしれないけれども、そちらから勉強した生涯学習はしないでいいということなのか。

資料を読んできたのですが、そのあたりが勉強不足なので、わからないのです。

【事務局】

補足させていただきます。

パワーアップカレッジについて、現在は2年制ということですが、今回の修学のしくみについては、特に1年次、2年次ということをあえて記載しておりません。ですので、単位の取り方にも関係しますが、基礎から入って専門のコースに進む方もいれば、専門のコースから入って基礎を学び直す方もいるかもしれません。そういったしくみでもいいのかもしれませんが、その辺のご議論もあるかと思えます。

ねりま防災カレッジですが、カリキュラムは検討中ということで、中身についてはまだ具体化されておりません。

ただ、パワーアップカレッジについては、資料3-1の裏面に、参考資料という形で、基礎的な部分では現在こういうカリキュラムを組んでいますということでお示ししています。そういう中には、学び方の問題、フィールドワークの問題、練馬区を知るといようなもの、それから福祉・保健ということで、委員からもありました行政課題も、きちんと施策を知るとい部分です。

既に、こういったものが基礎科目ということでパワーアップカレッジで行っておりますので、これらをうまく取り込みながら、他の分野についても共通する科目としてとらえるようになれば、パワーアップカレッジを学んだ方も、環境・まちづくりや子どもへ行くということも可能です。その辺は整理していきたいと思えます。

【座長】

ということは、1年で終わる場合も、2日で終わる場合もあっていいし、その單元については全部統一的にやってしまうと難しいという意見もあると思えますので、1年コースで終わる、1週間コースで終わる、そういうものを幾つか入れ込んだプログラムでいいのではないかと思いますがいかがでしょう。

【委員】

ねりま防災カレッジに関しては、カリキュラムがまだというお話だったので、こんな時代だと、ねりま防災カレッジは練馬学のような、大人の避難訓練ができるようにならなくてはいけないのではないかと思います。それでもねりま防災カレッジはつくった格好になるのですか。

例えば、基礎的分野というところが、本当にできたとしたら、その中の2コマぐらいで、AEDの使い方とかを受けてくださいと。ここまでを練馬学というものの中に入れてしまう。

パワーアップカレッジはもう5年も進んでいる。他はまだカリキュラムが上がっていないの

だとすると、薄く横に伸ばして、基礎にしておく方がおさまりがよさそうかという気がしました。そういう可能性はあるのでしょうか。

【事務局】

補足させていただきますと、資料3 - 2ねりま防災カレッジのカリキュラム欄に、「講座内容（対象別・クラス別）」という記載があります。具体的には書きませんでした。今の考え方の中では、入門コース、初級コース、リーダーコースというような形のコース設定はしているようです。

【委員】

そういうものが検討されているのですか。

【事務局】

はい。

【委員】

わかりました。

【座長】

もう一度確認ですが、基本的にすべての認証が地域とつながる活動にしたいということは、共通に議論しているところであります。他方、基礎分野と地域課題分野別にするのか、もしくは基礎を飛ばして上がっていくものもあるのか。その辺の多様性が必要かということも一方でありつつ、いや、せっかくだから2年でやりたいということもありつつ、その中で、短かっただら取得できるということもある。皆さん方のご意見をお伺いしたので、それを整理して、具体的にどういうプログラムだったらこうだというような議論をお任せするということができればいいでしょうか。

1・2年の議論は重要だけれども、テーマまたは対象によっては少し工夫が必要かと思うのですが、生涯学習課長のご意見はいかがでしょうか。

【生涯学習課長】

役所の中で、現在も当初から2つの事例を入れるということで、入れてありますけれども、それ以外にも多くの人材育成・活用事業というのをたくさんやっていますので、これこそ1年で終わる人材育成とかを含めて、多種多様なものが、これから、その場ができて、システムができてくるというのが区民大学だと思っていますので、それを取り入れていくためにも、画一的なものでとらえてしまうと、純粋に法人の大学と同じようなものになってしまう可能性もあると思っていますので、そのあたりを、今、議論にありますように、より柔軟に考えていただきながらご意見をいただくと、より広い部分の取り入れが可能なのかなと感じております。

【座長】

ここでの議論は、一つは、ねりま防災カレッジで検討されている議論を待つ。そして、そこ

での議論を尊重していく。

もう一方は、それぞれ多様性があるので、対象とプログラムによっては、変えてもいいのではないかと思いつつ、一方で、根幹となるものは2年コースにするとか。江戸川総合人生大学や軸となる他の大学はみんなそうしています。そういう根幹となるものは2年制にして、あとは多様性を持って、1年で終わるもの、半年で終わるものというものも組み込んで総体として議論するということがいかがでしょうか。

【委員】

防災カレッジが区民生活・産業分野にあるのは、違和感があります。

【委員】

ひとつのことだけではなく、さすらうようなカリキュラムがあってもいいと思います。

【委員】

いかに横の分野と連携するか。

【委員】

地域の人づくりと防災は関わりがあると思います。コミュニティの場として避難拠点は大事です。

【座長】

産業地域振興部長はいかがですか。

【産業地域振興部長】

現在、農の学校を計画していますが、今後この区民大学とどうマッチングしていくかです。本当に農業をやりたい方もいるし、ちょっとだけ農業に係わり方もいると思いますので、必ずしも2年制とは限らなくていいと思います。

【座長】

色々プログラムをつくる可能性は、今後、ねりま防災カレッジでも農の学校でもそうでしょうし、組み入れる段階で調整して、区民大学ということを確認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

3.区民大学の組織・運営

【座長】

次に運営組織、カリキュラム編成等を検討します。事務局から、説明をお願いします。

【事務局】

運営組織については、資料3 - 1の中段になります。区民大学事務局ということで、仮に3つの部門を入れましたが、こういった中身でよろしいかどうかご検討ください。また、カリキュラムの作成、卒業認定、認証も含めた委員会の設置、それから構成員、そういったものについてのご意見を頂戴したいと思います。学部、学科については、これまでのお話からするとなかなか難しいと認識しておりますが、そのあたりの確認もあわせてご検討いただければと思います。

【座長】

少し柔軟に考えたらどうかということですが、いかがでしょうか。

【委員】

学生委員会や学生大会というのがあると「私たちは、実はこういうものがほしいのです」と生徒側から上がるようなしくみをここへ書くのでしょうか。それとも、自発的に出てくるのを待つのでしょうか。

この企画運営委員会に入った区民ではない、生徒さん達が自発的に動き始めたときに新しい講座が生まれるとか、そういうしくみがあってもいいのではないのでしょうか。

【委員】

地域情報や人材バンクとか、確かにあった方がいいと思いますが、どこまで区民大学がやらなければいけないというか、これまで区民大学の仕事なのかなと。あれもこれもやってしまうと大変なのではないかと思えます。

【座長】

一つのかかりとしては、学生部門が学習支援としてその所定のところにつなげるというか、社会福祉協議会や教育関係ですとか、防災なら防災。学んだ人達が地域にいけるような所を紹介する。

【委員】

就職相談みたいな感じですね。卒業後の相談窓口のようなものがあるといいですが、ここでつくるのかというと。

【座長】

既存の資源と協働しながらマッチングを検討するという考えもあるのではないのでしょうか。他にいかがでしょうか。

【委員】

先ほどの色々な認証ですけれども、どういうものが認証されるのか、例えば何単位を取ったらこういうのができますといったら、休んでしまった人の場合は、来年度に2単位取れば認証できるとかなど、しくみによって、教務部門というか事務的なことは、すごい複雑なものというかわってくるのではないのでしょうか。そういった学生の単位は自身で管理するわけにはい

かないでしょうし、そういったものとあわせて、考えなくてはいけないと思います。

【座長】

いかがですか。

【委員】

私も学習のしくみも含めて、委員に賛成で、そんなにきつなくていいと思います。今、委員がおっしゃっていたように、ある一定のものが単位として取れたなら、それに対して認証するという制度であるならば、欠けた単位を取るのには1年後なのか、逆に2年終わった後で3年目なのかということも含めて考えると、運営の方も相当大がかりというか。

ただ、地域情報部門は「こういうのがある」という情報発信ができる、お手伝いができるというイメージなのかな、と僕の中では理解させていただいています。

そうすると、果たして始めようという期間の中で実際に組織として成り立つには結構厳しいだろうという部分は、既存のパワーアップカレッジ、また防災カレッジを含めてですけれども、ここよりも早く立ち上がるであろう組織をうまく活用しながら、横のつながりでいけるような形になるといいかと、自分の中ではイメージしています。

【座長】

江戸川・杉並などの事例とあわせながら検討することになりますかね。

【事務局】

そうですね。特に、地域情報部門についてのご議論をいただいておりますが、地域でどういう人材を求めているのか、あるいは卒業した方がどういう地域活動ができるか、そういった情報がうまく整理されて、卒業生あるいは地域の方がうまく使えるようなものがあればいいという認識であり、それが地域と人をつなげるシステムであると考えています。

前回、NPO活動支援センター、まちづくりセンターの事例を提供させていただきましたが、既にそういった情報を収集して、提供しているところもあります。それからボランティアセンターもそうです。そことうまく連携をしつつ、学習相談みたいなものを含めてできるのであれば一番いいと思っています。

システムとしては前回杉並の「すぎなみコム」の事例で、ソーシャルネットワークサービスの話も若干触れましたけれども、インターネットの中に、そういった情報が地域の方から入ってくる。それを各センターで区民の方が見るようなシステム、地域SNSみたいなシステムとできればというのはありますけれども、それを管理するのが大変というお話もあるかもしれません。そういったことまで必要なのかどうか、今後時間をおいてから入れたらいいのかとか、そういったことをご意見としていただければ、事務局としては助かります。

【委員】

情報として「こうあったらいいね」という夢を語るのと、この運営組織をつくると区の職員がどのくらい増えるのか、どうなるのか。懇談会の意見として「市民の意見でしたよ」と言われていいのかどうか。区側から「全部ボランティアでやる予定です」と言われたら、皆さんの

顔がどういうふうになるのか。そのあたりは、どれをベースに考えればいいのでしょうか。

【委員】

大学なのに何人扱うのかという基本がない。年間に1,000人とか、数がないと、運営も何も基本的なメッセージ性が少ない。練馬区は、区民大学で年間何人を想定しているのか、はっきりしていただかないと考えられないと思います。

【委員】

今の時代、職員が増えることはないですね。

【座長】

今後、懇談会から提言を出して、それを行政の方で議会と議論する。議会で話し合われたら、その中で予算のこととか出てくるので、今の段階で何名ということは難しいと思います。想定できるのは、例えばパワーアップカレッジは40人で今までどおりとする。そして、それぞれのプログラムについては何人単位で、どのくらいという計算になるのでしょうか。事務局いかがですか。

【事務局】

もちろん施設の大きさもありますが、これまで区で取り組んでいる事業は40事業あるというお話を差し上げましたが、それも千差万別いろいろです。100人単位でやっている認知症のサポーターもありますけれども、そういったことを含めて、委員がおっしゃったように、その辺が固まっていないと議論できないという話もあります。いずれにしても施設の大きさと今後検討する区民大学に組み入れる事業とを考え合わせてでないといけないかと思います。

【委員】

新しいものをたくさんつけ加えてくれと言っているのか、今まである既存のものを上手に取り組んでいけるようなアイデアをたくさん出してくれと言われているのか、あいまいである。この提案の中にも、かなり新しいものと混ざっているのか、そのあたりどこまで考えているのかということです。

【座長】

私としては、夢を語っていただき、こうしたいということを次回の会議で色々出していただき、その中で行政として可能なものを収束していくということで、夢は語りその中で何が必要なのかを議論してほしいです。委員の方の大事な意見は、とても刺激的で、その中で既存のものと一緒にするのはきちんと議論していただきたいと思います。

ただ、学生支援は、続けることは大変ですが、受けとめて関わっていただきたいです。

地域情報部門は事務局が言ったように既存のものと連携して振り分ける。情報バンクをつくり上げるなら、それぞれ協力してもらわないとつukれないわけです。まず協力関係をつくって、何でも集めて、地域とつなげる。パワーアップカレッジも今は社協とうまくつながって地域ボランティアとして活動しています。そういう意味では、この地域情報部門は既存のものと共存

してやっていただく。

プログラムに関しては、委員皆さんから出されたものは、できるかできないかは別にしても、どうしても捨てがたいです。夢があって練馬の新しい視点になると思うので、それは生かして、あとは担当で詰めていただく。

大学企画運営委員会の中に、ご意見のあった受講生を入れたらどうか。受講生の代表とか、受講生の人達も入れていくことが大事だと思います。

カリキュラムの作成という根幹の議論とともに、運営についてはそれぞれの企業で活動している卒業生も含めて学生も協力してやっていく必要があるでしょう。

いかがでしょうか。

【委員】

基本的には、当たり前ですけれども大きく育てることでしょう。それで、既存のものと連携していくということです。これだけちゃんと新しいものをやると、なかなか現実にはそぐわないという問題が出てくるのではないですか。

【委員】

子育てが終わって、会社勤めも終わって、これから自由に勉強したいという私ぐらいの年代の人に何かおもしろいものはないかなと。「これくらいならできるかもしれない」くらいの楽しいものが用意されているのがいいと思います。そんな勝手なわがままな部分が多いと困るかもしれないですけど。

何かおもしろいことがありそうだなと行く人も、こういうことをしたいから習いたいという明確な目的を持った人も、両方ともが満足できる場所があって、そこへ行けばわかる。区報やホームページを見ると色々なことをやっているのはわかりますが、そこへたどり着けないのです。

【座長】

それはもしかしたらつなぐ人の問題なのかもしれませんね。

ここの議論で確認しておくべきところはありますか。

【事務局】

あとは細かい部分、入学金や授業料とかありますけれども、それは柔軟に考えるということでもよろしいかと承りましたが、よろしいでしょうか。

(なし)

4.区民大学に求められる施設設備

【座長】

事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料5、参考資料4に沿って説明)

【座長】

交通アクセスや教育機関との連携についても合わせて説明をお願いします。

【事務局】

(参考資料5、参考資料6に沿って説明)

【座長】

ここの部分に関して議論をいただいた上で、11月には提言構成・提言文案、12月に提言文の完成、そして懇談会の感想を含めて終了ということになります。議題はこれで出尽くしましたので委員の意見をまとめ、たたき台をつくって再度お伺いし、その意見によって修正します。質疑、意見等いかがでしょうか。

【委員】

飛躍しているかもしれないですけども、大人の自習室というのを、前回の産業の流れからいって、シャッター街を利用して設けることは可能かと思いました。現在、クローズしているところを使えるようにして、自習室までいなくても、そういうものをつくるという考えはどうでしょうか。自習室として、そこに人が集まれるような空間というか、場所を設けて、大学にこういう講座があるという話もそういうところから出たりして、流れとして可能かなと。

【座長】

私は、シャッター街を開けるのは、みんながコミュニティとして使える活動の場として必要で、自習ではなく実習として活用するイメージだと思うのです。

自習室が区民大学内にあるというのは、時間が空いてしまうときに学習や研究として利用するためでしょう。

【委員】

教育センターはお庭が結構広いので、簡単な屋根をつくって、みんなが集うようなものをつくることは無理ですか。私は毎回使うときに、緑が多くてもったいないなと感じています。

【委員】

近くの商店街のお店に入れるような形でお金を払っていくようにしないと、区民大学ができて、お金が全く地域に入らなくて、みんな税金で取られて回っている。

商店街の空き店舗も、どこかからお金を出してオーナーを説得して安く借りたとしても、ビジネスで成立つのであれば、多分オーナーは自習室としてすでにやっているはずです。

だから、いい意味での地域活性化のお金が循環できるしくみにしないと、区民大学をつくって、みんなの居場所ができて、ただというのはどうかと。うまくポジティブに、みんながお金を使って回るしくみを考えた方がいいかと思うのです。

【委員】

お金の話ではなく、広いお庭でみんなが集うというか何かやれるものを考えてもいいのではないかと思います。あの辺りは商店とかほとんどないのでお店に寄って食べるという意味ではなくて、明るくみんなが集うような場所。そこを利用して学生さんが昼食を食べるとか、そういう雰囲気はすごい明るくなると思います。

【委員】

施設利用のあり方ですが、例えば、この講座はこの部屋というふうに、自由にその間は使えて色々なものを散らかしておいても、そのままでよいというような使い方にするといいのではないのでしょうか。ある種のクラブ活動みたいですが、そういう形で空き時間も使用できるという。ワークショップやグループ学習に利用できる時間をたっぷりと与えられるようにしていただいた方がいいように感じます。

【座長】

あと、関わった人が戻ってこられる、再度学習できるしくみや、同窓会などが自主的に集まれるような場所があるといいですね。

他にいかがでしょうか。

【委員】

区民大学に行くのは遠いので、明るい、ポップな食堂的なスペースをつくらないと。

【委員】

カフェテリアみたいなものですね。

【座長】

ちょっと食事ができるようなカフェテラスみたいなものがあるといいということですね。

ラーニングルームとか、お茶を飲むところや、みんなで話したりディスカッションしたりできる。また、自習だけではなく、ほっとできる空間もどこかにあった方がいいのでは、という意見も出ております。

【委員】

さっきも言いましたが、散らかしておいて翌週もいけるような、そういう構造にしていきたい。片づけるとリセットされる。

【座長】

多くの人が利用できるしくみをつくってもらおうということですね。

他にどうでしょうか。

【委員】

向かいの体育館の中に何か施設はございませんか。

【委員】

何もないですね。お店自体がないです。

【座長】

産業地域振興部長、産業と絡めて何かないですか。

【産業地域振興部長】

あの近辺の方でコミュニティビジネスで起業しよう、何か商売でも始めようとか、サービスを始めてくれる方がいらっしゃるといいでしょうね。

【委員】

アクセスはこれ以外にないですか。大泉方面から行こうとすると、すごい不便なのです。西武バスを動かすことは難しいでしょうが、みどりバスのルートを変えることはできますか。一応、案としてお願いしておきます。

【事務局】

そういう意見があるということをお知らせします。

【委員】

受講者の数としては少ないと思いますが、バリアフリーも配慮していただければと思います。今の時代、バリアフリーが大事だと思います。この間拝見したら入口が広がっていたり、エレベーターがついていましたが、広さとか、エレベーターに鏡をつけたりとか、そういう方が入りやすいように考えていただけるとありがたいです。

【座長】

ちょっとした配慮で、できるものもあります。

これで議題は議論していただきましたので、提言構成は参考資料7でお出ししたように進めさせていただきながら、どのように生かしていくかという検討は座長と事務局にお任せいただきたいと思います。

次回の予定を事務局からお願いします。

【事務局】

参考資料7を説明させていただきますと、提言の答申の構成案ということで今日ご案内させていただきました。今、座長からお話ございましたとおり、これまでの議論の積み重ねを、この構成案に従って入れ込んで取りまとめて、次回素案という形で整理したいと思っております。

次回は11月28日(月)午後6時30分から庁議室で行います。最終の第6回は12月20日(火)開会予定で、同じ場所、時間でございます。よろしくお願いいたします。

今回のご意見は、お配りしましたご意見シート等を使いながら11月2日(水)までに頂ければと思います。

【座長】

よろしいでしょうか。

(なし)

【生涯学習部長】

お忙しい中ありがとうございました。

各委員から、さまざまなご意見をいただいておりますので、その部分をぜひ吸い上げた形で、実のあるものにしていきたいと思っております。

先ほど、座長からお話ございましたけれども、今までいただいた意見を、事務局で一定の整理をさせていただいて、次回またお出しして、それぞれの内容について次回にまたご議論をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】

どうもありがとうございました。

(終了)